

とよ・たち美肌通信 4月号

Vol. 117



荒山 桃

April

とよたち 美肌通信 4月号の表紙は
春らしく 桜の木の下で かわいらしい
女の子が、楽しそうに お花見をしている
絵です♡

桜がとってもきれいに咲いていますね🌸
音楽を聴いたり、おいしい物を食べて、
する事が好きで、水泳やバドミントンで
兄弟対決をしたり、スポーツも得意な
女の子が描いてくださいました！

ありがとうございます😊

院長はじめスタッフ一同
いより感謝いたします。



世の中の全ての仕事は必ず誰かの役に立っている。
なぜならそれは現存する全ての仕事の問題解決
を行っているためです。世の中の仕事で問題解決
を行っていない仕事はなく、あとはそれを自分自
身で気づくことが出来るかどうかです。それに気が
ける時とはどんな時かという、他人に感謝
された時です。他人に感謝されると、私達には
「自分は必要とされている」という感情が目芽エ
ます。これを「自己有用感」というそうです。

それは全ての仕事において突然必ずやっ
てきます。但し表にあらわれ易い仕事もあれば、
見えづらい仕事があるのもまた事実です。

しかしもう一度言いますが、全ての仕事で問題
解決を行っていない仕事はありません。そしてその問
題が大きければ大きい程、仕事で得られる成
果や自己有用感も大きくなります。

逆に言うと問題解決が必要でなくなった仕事と
いうのは、仕事として成立しなくなるのでやがて消えて
いきます。自分の仕事か他人の為に役に立っている、

誰かの何らかの問題解決になっていると自分が考えられる様になると、必ず自分を認めてくれる人が少数でも周囲に出てくるものです。

人間にはとにかく社会と接点を持っていたい、働かっていたいという欲求があります。今、「仕事がつらい」、「もう働きたくない」と思っている人もいるでしょう。しかし働かなくて済む様になったとしても果たしてそれで幸せなのでしょうか。もちろん、しばらくは解放感を感じるでしょう。しかしそれがある時期から大きな無力感として、その人におとされることになるはずです。

仕事をしたいと自分は何の役にも立っていない存在だと思ってしまうのが人間存のたいと思います。

どんな仕事も他人や社会の役に立っています。そして人はどんな状況下でも働くことによって、社会の役に立ちたいという欲求を持って人生をおくる生き物なのだと思います。

院長、拝